

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 総合評価システム 建築環境総合性能評価システム (2016年改訂) ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	東山遊園星が丘ポウル跡地商業施設	階数	地上6F
建設地	名古屋市千種区星が丘元町1601番の1、1601番の2、1601番の7、1605番の一部、1610番の一部	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	1,055 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、物販店、集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年3月 予定	評価の実施日	2025年12月5日
敷地面積	18,749 m ²	作成者	
建築面積	1,169 m ²	確認日	2026年1月7日
延床面積	5,235 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.9

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆

①参照値 100%
②建築物の取組み 81%
③上記+②以外のオンサイト手法 81%
④上記+オフサイト手法 81%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.7

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 4.0

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項		その他
総合 緑を生かした環境との共生を目指し、居心地の良い屋内計画、外構計画(特に植栽、水景、ミスト等)に配慮した。		
Q1 室内環境 南面の開口部より十分な昼光率を確保した。空調設備においては、空調方式を直形式の全熱交換器+パッケージエアコンとし、外皮負荷に合わせて適切なゾーニングで計画した。	Q2 サービス性能 事務所エリアはOAフロアとし、十分なリフレッシュスペースを計画した。各所維持管理に配慮した材質を採用し、設備更新スペースに配慮した計画とした。	Q3 室外環境(敷地内) 周辺のまちなみに調和する建物計画とし、敷地内に庇や植栽、水景、ミストを設けることにより周囲の歩行者に対する快適性向上を配慮した。
LR1 エネルギー 外皮負荷を低減し、空調方式は空冷ヒートポンプエアコンとすることで、省エネルギーに配慮した。	LR2 資源・マテリアル リサイクル可能な建材、再利用できるユニット製品等を採用した。	LR3 敷地外環境 適切な数の駐輪場、駐車場を設けた。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

東山遊園星が丘ポウル跡地商業施設他

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル
 ■評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				3.7
LR1	エネルギー	3.8	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.7	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				3.8
Q3.1	生物環境の保全と創出	4.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	4.0	0.045	
3. 循環型社会				3.6
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.7
2. 自然共生	評価点 = 3.8
3. 循環型社会	評価点 = 3.6

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。